

図書室だより

2024年4月号

(令和6年卯月)【April】

南風原町立南星中学校 図書室



4月の目標: 図書館の決まりを守ろう 読書目標: 40冊



本を読もう



4月8日から貸出をスタート。図書室より3つの提案があります。

- ① 一年間で40冊を目標に読んでみよう!
- ② 朝の読書を充実させよう!
- ③ 課題は早めに取り組もう! 図書室は、読む学ぶ考えるあなたを応援します。



沖縄県立図書館の一括貸出を利用することができます。図書室は、全ての教科と総合の時間をより充実できるようサポートします! 準備してほしい本がありましたら、教えてください。



心に響く言葉

〜映画: LIFE! より〜
美しいものは注目を嫌う
今を楽しむ、今この瞬間を味わう



☆☆☆図書委員さんの紹介☆☆☆

みんなが心地良く利用できるように動きます。

1-1 名嘉恒星	2-1 山城蘭笑	3-1 玉城紅夏
1-2 波照間心杜	2-2 森田あゆみ	3-2 備瀬華音
1-3 喜屋武桜空	2-3 嘉味田 凜	3-3 金城直志
1-4 城間真宙	2-4 仲宗根真保	3-4 金城りな
1-5 八幡心菜	2-5 赤嶺一華	3-5 城間璃空
1-6 知念夕夏	2-6 大城瑠夏	3-6 田本しおり
よろしくお願ひします	2-7 玻座真てまり	3-7 城間小雪

心に響く言葉

〜映画: LIFE! より〜

Stay gold



2024/04/17

課題図書と指定図書の紹介します

10月読書月間に行われる、感想文・感想画コンクールの課題図書と指定図書です。

2024年第70回青少年読書感想文全国コンクール 課題図書(中学校)



『ノクツドウライオウ 靴ノ往来堂』 佐藤 まどか あすなろ書房
 あなたの人生を変える魔法の靴店!高いビルの中にちょこんとはさまっている小さな建物。くすんだ色のレンガ造りのこの店は、築100年のオーダーメイド靴店「往来堂」だ。店主は、靴職人の祖父。孫の夏希は、シューズデザイナーを夢見る中学生で祖父を尊敬していた。ある日、店の後を継ぐはずの兄が突然いなくなり、店は危機的状況となった。夏樹は後を継ぐべきか悩める日々を過ごす。そんな中、この店の土地を買い取りたいという土地開発会社の人たちが来た。祖父は、その内の1人の靴をみて足に合っていない靴を履いていると指摘する。その人は、どんな靴も合わないのであきらめていると話した。祖父が助言すると、その人は靴を注文することになった。でき上がった靴を渡してまもなく、その人が来店して言った。「まさか自分の人生が、たった一足の靴で変わると思いませんでした……」これらのいきさつを見ていた夏希は、自分の向かう道をさだめていく。シューズデザイナーを夢見る中学生をさわやかに描いた青春ドラマ!



『希望のひとしずく』 キース・カラプレーゼ 理論社
 オハイオ州の小さな町には、願いを叶えてくれるという井戸がある。中学一年生のライオンは、裕福な家の一人っ子アーネスト、幼なじみのリジーとともに、この井戸を見つける。そして、クラスメイトや町の人たちのさまざまな願いごとを知る。アーネストの亡くなったおじいちゃんが屋根裏部屋に保存していたものたちが、不思議な縁でいろんな人の手にわたり、奇跡的にその願いがかなっていく。いろんな悩みをかかえる人々が、ちょっとしたやさしさと救われていく、希望と愛でいっぱいのものがたり。



『アフリカで、バッグの会社をはじめました』 江口 絵理 さ・え・ら書房
 目の覚めるような原色に、花や動物、サークル模様がデザインされていて、持つだけで心が華やいてくる—人気のバッグ・ブランド「リッチーエプリーデイ」を立ち上げた仲本千津さんは、いま注目の「社会起業家」です。千津さんは、子どものころから「人の命を救う仕事をしたい」と思っていました。最初は医師になりたいという夢を持っていましたが、それをあきらめることになり、つぎに国連職員を目指します。大学に入り、今度は研究者への道を進みましたが、銀行員として社会人生活をスタートすることになりました。それでも、自分の夢をかなえる仕事を探しつづけた千津さんは、転職策の仕事でアフリカ・ウガンダのシングルマザーたちに会います。「彼女たちの力になれるビジネスはないだろうか」。そして千津さんは、アフリカンプリントを使ったバッグをつくる会社を立ち上げました。バッグづくりを通して、アフリカの貧困問題を解決し、女性を勇気づけ、輝かせたい—迷い、遠回りしながら、自分の信じる道を歩んできた仲本千津さんの姿を描く“進路決定”ドキュメンタリー。

2024年第68回西日本読書感想画コンクール 指定図書(中学校)



『カムイの大地 北海道と松浦武四郎』 泉田 もと 岩崎書店
 歴史の大きなうねりのなかで、男は、ひたすら北の大地を歩き続けた。旅の途中でいくつものアイヌの人々の村を訪れ、温かいもてなしに感謝と友情で応えた。そして、言葉、地名、自然、生活と文化…あらゆるものを記録に残し、広く世に伝えようとした。歴史的史実をもとにしたフィクション。コラムでは、アイヌの人々の衣食住や武四郎が手がけた出版事業、武四郎の晩年の住居なども紹介。北海道の名づけ親の、知られざる熱い人生!



『杉森くんを殺すには』 長谷川 まりる おさつ くもん出版
 「杉森くんを殺すことにしたの」高校1年生のヒロは、大決心をして兄のミトさんに電話をかけた。ヒロは友人の杉森くんを殺すことにしたのだ。そんなヒロにミトさんは「今のうちにやりのこしたことをやっておくこと、裁判所で理由を話すために、どうして杉森くんを殺すことにしたのか、きちんと言葉にしておくこと」という2つの助言をする。具体的な助言に納得したヒロは、ミトさんからのアドバイスをあますことなく実践していくことになるが……。



『きみの話を聞かせてくれよ』 村上 雅都 フレーベル館
 吹き抜ける風が心をゆらす—ぼくらは自分のままでいいだけ。そうあるように、ありたいだけ。7つの短編が連作に。軽やかに、でもたしかに、心に響く『ぼくら』の話。